

### 第3章 LIFE のカリキュラムの実際

#### LIFE V の年間カリキュラムデザイン

<b>学 年</b>	高等学校2年	時間数	35時間
<b>テーマ</b>	<b>言語の違いを越えて世界を学ぶ</b> - 国際理解や国際協力の深化をめざして -		
<b>キーワード</b>	異文化理解 国際交流 コミュニケーション		
<b>概 要</b>	LIFE Vでは、英語を使って世界中の人々とコミュニケーションをはかり、言葉や文化背景の違いを越えてお互いを理解するためには何が必要か、交流活動や表現活動を通じて考えを深めていく。 教科学習で得た知識を統合的に活用し、相手の価値観を尊重する態度をもって、基本的なコミュニケーション能力の育成を目標とした交流活動・表現活動を中心とし、授業を展開する。		

#### 1. 学習の目標・ねらい

##### 【プログラムの目標】

英語を介して文化背景の異なる人々と交流をしたり、グループでの探求活動や表現活動を通じて、お互いを尊重することのできる生徒の育成を目指す。

##### 【交流活動を通じて身につけること】

交流活動の過程で、文化背景の違いや、共通点が明らかになる。興味を掘り下げ、探求し、発信する過程で、異文化を理解するために何が必要か、生徒が実感できなければならない。生徒が活動する過程で、自分で知識を獲得し、新しい価値観を身につけ、行動に移すことができるよう、教師は援助していく必要がある。

また、自分たちの生活が地球的課題〔環境・人口・食料・貿易・地域紛争等の問題〕の解決なしに成立し得ないことを、交流を通じて実感させるように展開を配慮すべきである。

##### 【探求活動・発表活動を通じて身につけること】

プレゼンテーション等の実践は、効果的に情報を伝えるために必要な要素を生徒の力で発見する機会となるよう指導していかなければならない。

## 第3章 LIFE のカリキュラムの実際

### 2. 育まれる能力

- (1) 収集した情報を、目標に応じて選択したり、統合する能力
- (2) 文化背景の異なる人々と交流することで、行動様式や慣習の違いを理解する能力
- (3) 聞き手の背景知識・価値観の違いを意識して、効果的な表現活動を展開する能力

### 3. 評価の観点

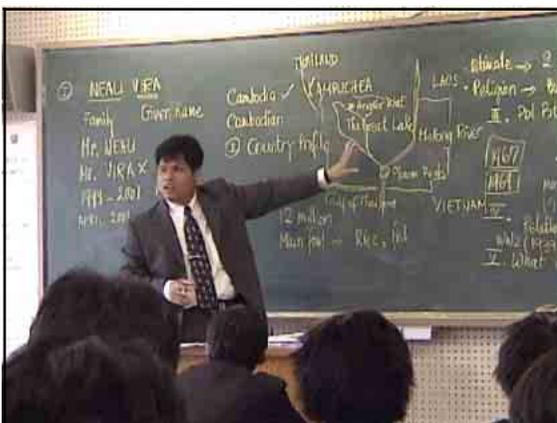
- (1) 探究活動に意欲的・積極的に取り組むことができたか
- (2) 文化の多様性について理解を深めることができたか
- (3) わかりやすい効果的な表現活動ができたか

### 4. 評価の方法

- (1) 教師による活動の評価（活動の過程の観察や、レポートや発表資料など）
- (2) 生徒の活動の記録を活用した評価
- (3) 表現活動における相互評価

#### < 評価に対する考え方 >

「評価」には生徒の学習を把握する assessment の機能と、評点を出す evaluation の機能があるが、ここでの「評価」は assessment のためのものである。「アンケート」の実施や「観察」を通じて、生徒の実態を把握し、有効な指導に結びつける。このような資料は、グループ分けの際に非常に重要な情報であり、さらに学年の最終段階で、文化理解がどのように深まっていったか、教師だけでなく生徒自身が確認することができる。



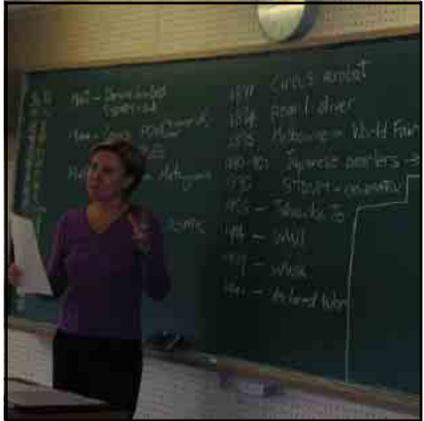
〔交流の様子〕



〔プレゼンテーションの様子〕

第3章 LIFE のカリキュラムの実際

6. 年間指導計画 (35時間扱い)

月	単元名	学習のテーマ・ねらい	学習の具体的な内容
4	オリエンテーション	年間テーマの提示 アンケートの実施	交流先の文化(Target Culture : 以下TC)にどのような興味関心があるかを明らかにする。
5	1. 交流への準備	自分たちの身の回りに目を向けることで、「文化」を帰納的に定義づけしていく。 ・課題の設定 ・グループ活動 ・ワープロソフトを利用してホームページを作成	身の回りの「日本文化」に目を向け、グループでテーマを選んで、ホームページに掲載することを前提とした英文原稿にまとめる。
6	2. 留学生と交流しよう	TC出身の留学生や地域の人を招いて交流し、異なる文化について理解を深める。 TCについて興味関心を持ったことについて、グループで探求する課題を設定する。 探求活動を展開する。	様々な作品を見て、「文化」を構成する様々な要素を意識する。 英語で講演を聴き、内容について質問する。
7	3. 異文化を探求しよう 探求活動の構想決定 ・調査活動 ・構成決定	グループで作業分担調査、探求活動  〔調査活動の様子〕	 〔講演の様子〕 グループ内で意見交換し、課題の修正などを行う。 講演をしてくれた人と電子メールなどで交流を継続し、調査の参考にする。
8	・中間発表	聞き手を意識して、課題の修正を行う。	発表の制限時間などを意識して、調べたい内容を焦点化する。  調査の継続や原稿のまとめは休暇中に行う。

第3章 LIFE のカリキュラムの実際

9	<p>プレゼンテーションの発表準備</p> <p>リハーサル</p> <p>プレゼンテーション</p>	<p>発表を効果的なものにするために、必要な情報は何かを考え、内容の組み立てや絵図の作成に活かす。</p>  <p>〔発表の様子〕</p>	<p>資料の精選 絵図の作成</p> <p>教師の評価視点を与えて、同じ観点を用いてグループ内で評価し、自己修正する。 「異文化理解を促すものか」「効果的なコミュニケーションのための技能が活かされていたか」という観点で観察し、相互評価する。</p>
10	<p>プレゼンテーションの反省</p> <p>4. 交流の発展</p>	<p>見ていた生徒からの評価を反省に活かす。</p> <p>プレゼンテーションをビデオレターとし、交流を発展させる。 TCと自分たちの相互の関わりを考える。</p>	<p>自己反省や他の生徒からの感想や質問をもとに、さらに追求すべき課題を明らかにする。</p> <p>発表の内容をスタートとして、過去・現在・未来におけるTCと自国の接点を考える。</p>
11	<p>5. 異文化理解</p>	<p>文化の違いを越えた相互理解について考える。</p>	<p>異文化理解を妨げる要素「世代の壁」や、ステレオタイプを批判的にとりあげ、偏見こそが個人レベルの異文化理解の障壁となりうることを、実例をふまえて考える。</p> <p>お互いが理解し合うために、障害となること、助けとなることは何かを考え、今後お互いが共同して取り組めることは何かを意識して交流が発展する。</p> <p>地球的規模で取り組む必要のある課題について個人ができることを考える。</p>
12	<p>6. まとめ</p>	<p>1年間の活動の評価</p>	<p>目標の立て方は適切であったか、軌道修正ができたか。</p>